

連載シリーズ 京都市内博物館施設連絡協議会（京博連）加盟施設紹介

第5回 京都伝統産業ふれあい館

【京都伝統産業ふれあい館】

左京区岡崎にある「京都市勧業館（みやこめッセ）」の中に、「京都伝統産業ふれあい館」（以下「伝統産業ふれあい館」と省略）という施設があるのをご存知でしょうか？

（みやこめッセ）は京都最大級のイベント会場・展示場ですが、その地下1階にある為、外から見えない事もあって知らない人も多いのではないのでしょうか。

現に私も京博連様発行の「京都ミュージアム探訪」の本で知るまでは、何度もこの周辺をうろつきながら見落としていたのですから・・・。



京都勧業館（みやこめッセ）



みやこめッセ入口のふれあい館 INFO 看板

【伝統産業・伝統工芸品】

我が国ではそれぞれの土地で昔から伝わってきた技術を使って、一つ一つ手作りで作られているものがあります。それらは伝統的工芸品と呼ばれるもので、織物・焼物・漆器・木工品などがあります。

伝統産業とは、伝統的な技術と原材料を使ってこれらの伝統的工芸品などを生産する産業のことです。

国では、昭和49（1974）年に、全国各地の伝統産業を守り育てていこうと「伝統的工芸品産業の振興に関する法律」（伝産法）が制定されました。

2017年11月現在、国が指定した「伝統的工芸品」が230品目あり、その中で京都には以下の17品目もあり、全国的に見ても伝統産業が大変盛んな地域です。

- | | | | | |
|------------|---------|------|------|--------|
| ・西陣織 | ・京鹿の子絞 | ・京友禅 | ・京小紋 | ・京くみひも |
| ・京繻（きょうぬい） | ・京黒紋付 | ・京仏壇 | ・京仏具 | ・京漆器 |
| ・京指物 | ・京焼・清水焼 | ・京扇子 | ・京表具 | ・京石工芸品 |
| ・京うちわ | ・京人形 | | | |

更に京都には上記17品目以外にも歴史と伝統に育まれた多くの伝統産業があり、どれも大切な財産です。

しかし、京都の伝統産業も生活スタイルの変化や、海外から値段の安い製品がたくさん輸入されるようになったことなどから、生産量や職人さんの数が少なくなり、続けていく事が難しくなっています。

そこで京都市は「京都市伝統産業活性化推進条例」を作り、京都の伝統産業のことをもっとよく知ってもらう為に学習の機会を作ったり、後継者を育てたりして伝統産業を活性化させようとしています。

伝統産業が元気になると、

- 1・京都の経済が発展する
- 2・豊かな地域社会が生まれる
- 3・日本の伝統産業が活性化する
- 4・日本の文化を京都から世界へ発信する

などが期待できます。

「伝統産業ふれあい館」は、数々の伝統産業製品やその作り方を見る事が出来、また簡単な体験も出来る教室もあります。

更に、伝統工芸職人による実演のほか、芸奴さん、舞妓さんの華やかな舞台も見られる機会もあります。

以上 平成30年度版 「わたしたちの伝統産業 1200年の京が育んだ手作りの文化とところ」
京都市産業観光局 京都市教育委員会 発行 より抜粋



地元小学校の子どもたち向けに易しく編集された「わたしたちの伝統産業」という冊子



京都伝統産業ふれあい館のパンフレットと職人さんの実演派遣のパンフレット

館内を覗いてみると、現在 常設展示場では京都の歴史と技を伝える伝統工芸品74品目、約500点を一同に集め、体系的に紹介する国内でも有数の展示場です。

残念ながらほとんどが写真撮影が禁止されている為にお見せできませんが、入場は無料ですのでぜひご自身の目で我が京都が誇る秀逸の品々を再確認するためにも訪れてみられるのはいかがでしょうか。

京都に来られた方々を先ずここに案内し、興味を持たれた品々を深く掘り下げられる場所などに連れて行ってあげれば最高ではないでしょうか。

そんな使い方もある良いスポットだと思います。

展示室の最後には、ミュージアムショップ「京紫苑」があり、展示されていた「ほんまもん」の伝統工芸品をお土産に購入することができます。



B1F 京都伝統産業ふれあい館 入口です



常設展示場の中庭



1Fから見下ろすふれあい館の中庭

【個人的な感想】

京都に長年住んでいるからこそ、また他の地方の人々に比べれば当たり前のように見てきた京の伝統工芸品の数々。

一つ一つ詳しく見れば見るほど、一朝一夕で成し得たものではない事が分かるのですが、今でもこうして引き継がれている事を目の当たりにすると絶対に絶やしてはいけないと思う毎日です。

訪れた日が平日のお昼前ということもあったかも知れませんが、館内はほとんど人影が見えませんでした。

じっくり見るにはいいのですが、余りにも素晴らしい伝統工芸品の宝庫に人の姿が見えないのが無性に悲しく、虚しい思いで広々とした展示場を廻りました。

先ほど紹介した記事の元となる「わたしたちの伝統産業」という冊子は、市の観光局と教育委員会が発行した物だけあって、小学校（４年）の社会科の学習（自由研究などの課題提案）にもなるような分かりやすく書かれた案内書です。

次代を担う若い子供達に実物を見せ、調べまた体験出来るこうした施設があることは大変心強いものです。

出来るならもっと一般京都市民や観光で訪れる人々にも広く知って欲しくて仕方ありません。

伝統技術の実演をさせていただいている職人の方も、私以上にきっともっと知って欲しいに違いありません。

折角の施設と人材、もっともっと表に見える形に工夫してもらえる施策を期待したいと思いました。

【岡崎の地】

勧業館（京都伝統産業ふれあい館）が岡崎という地に建てられたのは偶然ではないと思っています。

今から約１２５年前、明治２８（１８９５）年、平安遷都千百年記念事業として「第４回 内国勧業博覧会」がこの岡崎で開催されたことは、都でなくなって元気がなくなった京都を新しく生まれ変わらせる大きな転機となったことは動かしがたい事実です。

平安神宮が建設され、博覧会の来場者輸送の為に琵琶湖疏水から作られた電気を使って日本で初めて走らせた市街電車。

外国人の立ち入りを許可し、宿泊させる為のホテルを作ったり今の京都の代名詞ともなった「観光地京都」を作ったのはこのわずか１２５年前の岡崎での博覧会だったのです。

「温故知新」

今もう一度思い浮かべてみる時期かも知れないと思いました。



ミュージアムショップ「京紫苑」